

視能訓練士科

科目	視覚機能学 II	必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	1年次に学んだ両眼視機能の基礎をもとに、その障害を持つ患者への検査法について学ぶ。両眼視機能の破綻は様々な愁訴を引き起こし、特に小児においては両眼視機能の異常が原因で斜視や弱視などの、視覚の発達への妨げになる重大な病態を引き起こしかねない。これらの検査は視能訓練士にとって重要な業務となっているため、より正確な知識が求められる。							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	大型弱視鏡の仕組み					
2	両眼視機能の基礎と復習	12	大型弱視鏡検査概論					
3	両眼視機能検査機器の種類	13	大型弱視鏡1					
4	両眼視機能検査機器の分類	14	大型弱視鏡2					
5	Bagolini線条検査	15	大型弱視鏡3					
6	Worth 4 灯検査	16	大型弱視鏡4					
7	残像を用いた検査の仕組み	17	まとめ					
8	残像試験、残像ひきとり試験	18	定期試験					
9	赤フィルタ法							
10	位相差ハプロスコープ							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、視能検査学(医学書院)、他								
			担当講師	大原秀徳				

視能訓練士科

科目	視覚機能学 III	必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	この授業では眼科特殊検査について学ぶ。 眼科検査は視力などの一般検査と視野や眼底などの特殊検査に分けられる。眼科特殊検査はより高度な知識と技術を必要とするため、実際の機器を触りながら授業を展開させていく。臨床で遭遇しやすい疾患への適切な検査法なども自身の現場経験を生かして説明する。							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	超音波の性質					
2	眼底検査の基礎	12	超音波検査1					
3	眼底の解剖学的特徴	13	超音波検査2					
4	ビズスコープ検査	14	IOLマスター					
5	光干渉断層計(OCT)の概要	15	電気生理学					
6	光干渉断層計(OCT)検査	16	電気生理検査					
7	眼科写真1	17	まとめ					
8	眼科写真2	18	定期試験					
9	眼科写真3							
10	検影法							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、眼科検査ハンドブック(医学書院)、他								
			担当講師	大原秀徳				

視能訓練士科

科目	保健医療福祉学 II	必修	履修学年	2	授業の方法	講義	時間数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目標	<p>前半は主に感染症対策などの公衆衛生の基本を学ぶ。 特に院内感染菌となるウイルスへの適切な対応など総合的に学ぶ。後半は医療訴訟やロービジョンケアについて学ぶ。 特に視覚障害者の判定に必要な検査はすべて視能訓練士の業務となっているため、実践を想定した授業を展開する。</p>							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	生命表					
2	感染症	12	ロービジョン					
3	スタンダードプリコーション	13	補装具と日常生活用具					
4	感染菌と感染経路	14	拡大鏡と倍率計算					
5	公衆衛生総論	15	点字と歩行					
6	公衆衛生のための政策	16	盲導犬					
7	環境問題1	17	まとめ					
8	環境問題2	18	定期試験					
9	疫学的手法							
10	人口統計							
評 価								
<p>出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試験を認めることがある。</p>								
教 材								
<p>視能学(文光堂)、眼科検査ハンドブック(医学書院)、他</p>								
			担当講師	大原秀徳				

視能訓練士科

科目	視能矯正学Ⅱ	必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	患者様への接遇や検査時の声掛けを大切にし節度ある医療従事者を目指す。 検査目的理解し、検査手順や検査結果の解釈および検査上の注意点等について学ぶ。 どのような矯正状態にも対応できるよう講義を行い、学生に自発的に考えさせる講義を目標とする。							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	眼位・眼球運動検査					
2	視力検査	12	眼位・眼球運動検査					
3	放射線乱視表	13	眼位・眼球運動検査					
4	クロスシリンダー	14	眼位定量					
5	オートレフクトメーター	15	眼位定量					
6	オートレフを使用した視力検査	16	立体視検査、レンズメーター					
7	オートレフを使用した視力検査	17	まとめ					
8	オートレフを使用した視力検査	18	定期試験					
9	オートレフを使用した視力検査							
10	オートレフを使用した視力検査							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試験を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、配布資料等								
			担当講師	大瀧友矩・染谷朋美				

視能訓練士科

科目	視能矯正学実習Ⅱ	必修	履修 学年	2	授業の 方法	j実習	時間 数 (単位)	72(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	<p>視能訓練士としての現場で得た経験をもとに、患者様への接遇や検査時の声掛けを大切にし節度ある医療従事者を目指す。 検査学実習、訓練学実習同様に講義で学んだ検査目的、対象、検査手技、検査結果の解釈および検査上の注意点等についてを活かし、実習で手技を磨き臨床で役立つよう知識や応用力を身につけてもらうことを目標としている</p>							
内 容								
1	授業ガイダンス	19	オートレフを使用した視力検査2					
2	視力検査	20	オートレフを使用した視力検査3					
3	視力検査2	21	Hirschberg					
4	視力検査3	22	眼球運動検査					
5	放射線乱視表	23	輻湊近点検査					
6	放射線乱視表2	24	眼位の定性					
7	放射線乱視表3	25	眼位の定量					
8	スキア検査	26	眼位の定量					
9	Bagolini線条ガラス試験	27	ビズスコープ					
10	Worth4灯試験	28	CFF					
11	フリッカー検査	29	立体視検査					
12	クロスシリンダー	30	動的視野計					
13	クロスシリンダー2	31	動的視野計					
14	オートレフラクトメーター	32	動的視野計					
15	オートレフラクトメーター2	33	静的視野計					
16	大型弱視鏡	34	レンズメーター					
17	大型弱視鏡	35	まとめ					
18	オートレフを使用した視力検査	36	定期試験					
評 価								
<p>出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試験を認めることがある。</p>								
教 材								
<p>視能学(文光堂)、視能検査学(医学書院)</p>								
			担当講師	大瀧友矩・染谷朋美				

視能訓練士科

科目	視能検査学Ⅱ	必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	72(4)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	患者様への接遇や検査時の声掛けを大切にし節度ある医療従事者を目指す。 検査目的、対象、検査手技、検査結果の解釈および検査上の注意点等について学ぶ。臨床で役立つよう知識や応用力を身につけてもらうことを目標としている							
内 容								
1	授業ガイダンス	19	オートレフを使用した視力検査2					
2	視力検査	20	オートレフを使用した視力検査3					
3	視力検査2	21	Hirschberg					
4	視力検査3	22	眼球運動検査					
5	放射線乱視表	23	輻湊近点検査					
6	放射線乱視表2	24	眼位の定性					
7	放射線乱視表3	25	眼位の定量					
8	スキア検査	26	眼位の定量					
9	Bagolini線条ガラス試験	27	ビズスコープ					
10	Worth4灯試験	28	CFF					
11	フリッカー検査	29	立体視検査					
12	クロスシリンダー	30	動的視野計					
13	クロスシリンダー2	31	動的視野計					
14	オートレフラクトメーター	32	動的視野計					
15	オートレフラクトメーター2	33	静的視野計					
16	大型弱視鏡	34	レンズメーター					
17	大型弱視鏡	35	まとめ					
18	オートレフを使用した視力検査	36	定期試験					
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、視能検査学(医学書院)								
			担当講師	大瀧友矩・染谷朋美				

視能訓練士科

科目	視能検査学実習Ⅱ	必修	履修 学年	2	授業の 方法	実習	時間 数 (単位)	72(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	患者様への接遇や検査時の声掛けを大切にし節度ある医療従事者を目指す。矯正学実習、訓練学実習同様に講義で学んだ検査目的、対象、検査手技、検査結果の解釈および検査上の注意点等についてを活かし、実習で手技を磨き臨床で役立つよう知識や応用力を身につけてもらうことを目標としている							
内 容								
1	授業ガイダンス	19	オートレフを使用した視力検査2					
2	視力検査	20	オートレフを使用した視力検査3					
3	視力検査2	21	Hirschberg					
4	視力検査3	22	眼球運動検査					
5	放射線乱視表	23	輻湊近点検査					
6	放射線乱視表2	24	眼位の定性					
7	放射線乱視表3	25	眼位の定量					
8	スキア検査	26	眼位の定量					
9	Bagolini線条ガラス試験	27	ビズスコープ					
10	Worth4灯試験	28	CFF					
11	フリッカー検査	29	立体視検査					
12	クロスシリンダー	30	動的視野計					
13	クロスシリンダー2	31	動的視野計					
14	オートレフラクトメーター	32	動的視野計					
15	オートレフラクトメーター2	33	静的視野計					
16	大型弱視鏡	34	レンズメーター					
17	大型弱視鏡	35	まとめ					
18	オートレフを使用した視力検査	36	定期試験					
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試験を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、視能検査学(医学書院)								
			担当講師	大瀧友矩・染谷朋美				

視能訓練士科

科目	視能障害学 II	必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	<p>総合病院での現場勤務および教育現場で培った知識をもとに難解と思われる視覚機能の基礎知識を分かりやすく展開する。 この授業では視能訓練士が眼科検査を行うにあたって必要な視力や視野や色覚の機能的な意味と解剖学的な理解を学ぶ。 視覚機能はいわば『見る』ことに直結する機能であり、最も興味を持ちやすい分野である。</p>							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	麻痺性斜視の手術(1)					
2	核・核下性麻痺の基礎	12	麻痺性斜視の手術(2)					
3	全外眼筋麻痺	13	麻痺性斜視の手術(3)					
4	重症筋無力症(1)	14	Brown 症候群					
5	重症筋無力症(2)	15	Duane 症候群(1)					
6	外眼筋ミオパシー	16	Duane 症候群(2)					
7	恒常性眼症	17	まとめ					
8	外眼筋炎	18	定期試験					
9	固定斜視(1)							
10	固定斜視(2)							
評 価								
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試験を認めることがある。								
教 材								
視能学(文光堂)、現代の眼科学(金原)、他								
			担当講師	大原秀徳				

視能訓練士科

科目	視能障害学 III		必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時 間 数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目									
目 標	総合病院勤務経験と教育現場で培った知識をもとに、難解な疾患である麻痺性の斜視のうち、核上性といわれる病態について概要を学ぶ。神経眼科は学問領域が深く、高度な知識が必要とされるが、現場で生かせる知識を伝えたい。								
内 容									
1	授業ガイダンス		11	one-and-a-half症候群					
2	脳の構造と神経系の基礎		12	Vertical one-and-a-half症候群					
3	中枢神経		13	眼球運動失行症					
4	眼球運動に関わる神経核		14	lateropulsion					
5	眼球振盪1		15	非共同運動の異常					
6	眼球振盪2		16	回旋・耳石器官の異常					
7	共同運動の異常		17	まとめ					
8	水平注視麻痺		18	定期試験					
9	上下注視麻痺								
10	核間麻痺								
評 価									
出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試を認めることがある。									
教 材									
視能学(文光堂)、配布資料									
				担当講師	大原秀徳				

視能訓練士科

科目	視能障害学特論	必修	履修学年	2	授業の方法	講義	時間数 (単位)	36(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目標	<p>この授業ではこれまで学習してきた眼疾病について、検査上の総合的な理解を深めることを目的としている。眼科薬理学をはじめ、神経眼的アプローチ、高次脳機能障害などについて授業を展開していく。 特に薬剤の点眼は侵襲性が高く、医師の具体的指示を必要とする業務であるため、適切な点眼方法を含め学習していく。</p>							
内 容								
1	授業ガイダンス	11	神経眼科					
2	薬理学概論	12	瞳孔の異常					
3	眼科薬理学のあらまし	13	瞳孔の検査					
4	視能訓練士と薬剤の使用	14	高次脳機能障害1					
5	薬剤と法律	15	高次脳機能障害2					
6	自律神経系薬剤1	16	高次脳機能障害3					
7	自律神経系薬剤2	17	まとめ					
8	自律神経系薬剤3	18	定期試験					
9	自律神経系薬剤と検査							
10	その他の重要な薬剤							
評 価								
<p>出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試験を認めることがある。</p>								
教 材								
<p>視能学(文光堂)、現代の眼科学(金原)、イラスト眼科(文光堂)、他</p>								
			担当講師	大原秀徳				

視能訓練士科

科目	視能訓練学 II	必修	履修 学年	2	授業の 方法	講義	時間 数 (単位)	72(4)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	<p>前期では視能訓練士として最も重要な斜視について、その歴史、分類、各型、治療法について学ぶ。斜視は小児の数%に必ず発生するもので、放置しておくとも視覚の発達が妨げられる。後期では弱視についてその原因やタイプについて学ぶ。斜視は弱視との関連性が高く、斜視・弱視と称されるように、どちらか一方の病態のみ理解するのではなく総合的な理解が必要となる。この授業では斜視・弱視における症例を中心に学生みずから病態を把握し、治療計画を立てられるよう症例を元に実践も交えて学習する。</p>							
内 容								
1	授業ガイダンス	19	授業ガイダンス					
2	斜視概論	20	弱視総論					
3	斜視の歴史	21	弱視の歴史					
4	斜視の分類1	22	弱視の分類1					
5	斜視の分類2	23	弱視の分類2					
6	斜視の各型	24	弱視の分類3					
7	内斜視の分類	25	弱視の分類4					
8	先天内斜視1	26	弱視の検査1					
9	先天内斜視2	27	弱視の検査2					
10	調節性内斜視1	28	弱視の検査3					
11	調節性内斜視2	29	弱視の治療1					
12	非調節性内斜視	30	弱視の治療2					
13	偽斜視	31	弱視の治療3					
14	外斜視概論	32	弱視の治療4					
15	外斜視各論	33	弱視の訓練1					
16	斜視の治療	34	弱視の訓練2					
17	まとめ	35	まとめ					
18	定期試験	36	定期試験					
評 価								
<p>出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試験を認めることがある。</p>								
教 材								
<p>視能学(文光堂)、眼科検査ハンドブック(医学書院)、他</p>								
				担当講師	大原秀徳			

視能訓練士科

科目	視能訓練学実習Ⅱ	必修	履修 学年	2	授業の 方法	実習	時間 数 (単位)	72(2)
★実務経験のある教員等による授業科目								
目 標	<p>患者様への接遇や検査時の声掛けを大切にし節度ある医療従事者を目指す。 矯正学実習、検査学実習同様に講義で学んだ検査目的、対象、検査手技、検査結果の解釈および 検査上の注意点等についてを活かし、実習で手技を磨き臨床で役立つよう知識や応用力を身につ けてもらうことを目標としている</p>							
内 容								
1	授業ガイダンス	19	オートレフを使用した視力検査2					
2	視力検査	20	オートレフを使用した視力検査3					
3	視力検査2	21	Hirschberg					
4	視力検査3	22	Hirschberg2					
5	放射線乱視表	23	眼球運動検査					
6	放射線乱視表2	24	眼球運動検査2					
7	放射線乱視表3	25	輻湊近点検査					
8	スキア検査	26	輻湊近点検査					
9	スキア検査	27	眼位の定性					
10	フリッカー検査	28	眼位の定性					
11	フリッカー検査	29	眼位の定量					
12	クロスシリンダー	30	眼位の定量					
13	クロスシリンダー2	31	立体視検査					
14	クロスシリンダー3	32	動的視野計					
15	オートレフラクトメーター	33	静的視野計					
16	オートレフラクトメーター2	34	レンズメーター					
17	オートレフラクトメーター3	35	まとめ					
18	オートレフを使用した視力検査	36	定期試験					
評 価								
<p>出席率、授業態度、定期試験の結果を総合的に判定し、60点以上を合格とし、単位を認める。再試験・追再試 を認めることがある。</p>								
教 材								
<p>視能学(文光堂)、視能検査学(医学書院)</p>								
			担当講師	大瀧友矩・染谷朋美				